

## 防災・日本再生シンポジウム

# 震災復興まちづくりの事前準備へ

### -過去と東北の復興事例を踏まえて-

三重大学大学院工学研究科/美し国おこし・三重さきもり塾

三重大学地域圏防災・減災研究センター

浅野 聡

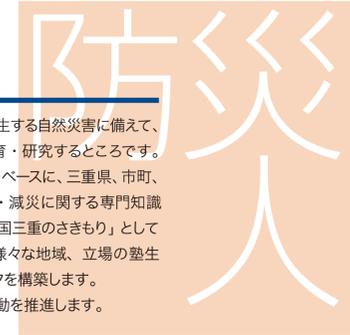
## 三重大学「美し国おこし・三重さきもり塾」(詳細はHP)

・防災人材育成塾として開塾

・塾生は、地域住民・行政職員・企業防災担当者・大学院生等

## さきもり塾とは

「美し国おこし・三重さきもり塾」とは、三重県地域で発生する自然災害に備えて、防災・減災のための各種計画やマネジメントについて教育・研究するところです。三重大学が有する自然科学、人文社会科学等、知の集積をベースに、三重県、市町、企業、NPO、県民、各研究機関と連携協力して、防災・減災に関する専門知識と実践力を身につけ、地域づくりに貢献する人材を「美し国三重のさきもり」として養成します。また、「美し国おこし・三重さきもり塾」は、様々な地域、立場の塾生との出会いの場として、共通の目的を持つ仲間とネットワークを構築します。これらの取り組みを通じて、三重県地域の防災・減災活動を推進します。



## 三重県の防災・減災活動を担う人材を育てます。

文部科学省・科学技術振興調整費 [地域再生人材創出拠点の形成] 事業 (現在は戦略推進費) の採択を受けて実施 (平成21年度～平成25年度)



戦略推進費

## 三重県における震災復興の事前準備に向けた課題

### (1) 現状

「発災直後」と「応急対策期」を中心とした対策であること

・自主防災組織・学校・企業

→ 「発災直後」における避難訓練・消火訓練を中心とした防災訓練までは実施しているが、そこから先は未着手

・自治体・企業

→ 「応急対策期」における図上訓練・救助活動訓練・BCP(業務継続計画)の策定などまでは実施しているが、そこから先は未着手

### (2) 課題

震災復興(プロセス)のイメージ、被災後の厳しい生活イメージが理解されていないこと

→ 被災後の厳しい生活への腹づもり、事前準備が出来ていないために、迅速な復興事業に支障をきたす可能性が大

### (3) 対応

「復興対策期」のイメージを理解し、復興に向けた事前準備へ

三重大学  
防災「美し国おこし・三重さきもり塾」  
公開シンポジウム

**災害に備えた  
まちづくり・人づくり**

三重県で大災害を防ぐために  
～防災を担う人材“さきもり”のこれまでとこれから～

平成 25 年  
11月24日(日)  
13:00～17:00 (開場 12:30～)

会場 「ホテルグリーンパーク津」  
(伊勢・安濃の間)

参加無料 観覧費 / 299 円 (中学生以下は無料 (詳細をご覧ください))

プログラム

■12:30～ 開場 / 受付	■15:15～ ハネルディスカッション
■13:00～ 開会あいさつ	テーマ「防災人材の育成と活用の展望」
鈴木英敏 三重県知事	コーディネーター
内田淳正 三重大学長	浅野 聡 (三重大学大学院工学研究科准教授 / さきもり塾 基盤長)
林 孝浩 文部科学省 科学技術・学術政策局 科学技術・学術政策課長	コメンテーター
	中村一樹 (明治大学特任教授 / 京都大学名誉教授)
■13:10～ 議題	林 孝浩 (文部科学省 科学技術・学術政策局 科学技術・学術政策課長)
テーマ「三重県における今後の防災人材の育成・活用について」	■16:30～ パネルディスカッション「美し国三重のさきもり」
鈴木英敏 三重県知事	川上 義 (復興対策局長)
内田淳正 三重大学長	磯野有希 (自治体社会保険局長)
松中重光 美し国おこし・三重さきもり塾長	大久保浩 (企業代表)
	■17:00 閉会あいさつ
■13:40～	松中重光 三重大学学長補佐(防災担当) 美し国おこし・三重さきもり塾 塾長
「美し国おこし・三重さきもり塾」の紹介	司会 亀山裕子
「美し国おこし・三重さきもり倶楽部」の活動紹介	「美し国おこし・三重さきもり塾」(事務局)
平林真久 (三重大学大学院工学研究科 准教授)	水谷義人 (美し国おこし・三重さきもり倶楽部 会長)
水谷義人 (美し国おこし・三重さきもり倶楽部 会長)	■17:00 閉会あいさつ
■14:00～ 基調講演	松中重光 三重大学学長補佐(防災担当) 美し国おこし・三重さきもり塾 塾長
演題「防災人材育成の発展と展望 ～人材の育成と活用を通して、活動を有効にする～」	司会 亀山裕子
中村一樹 (明治大学特任教授 / 京都大学名誉教授)	「美し国おこし・三重さきもり塾」(事務局)

主催：三重大学 共催：三重県 / 美し国おこし・三重さきもり倶楽部 後援：自然災害研究協議会中部地区部会

美し国おこし三重・さきもり塾

公開シンポジウム

◆2013年11月24日(日)

◆13:00～17:00

◆ホテルグリーンパーク津  
(津駅前)

中山間地型復興住宅の提案



地震に伴う津波被害からの復興事例

北海道奥尻郡奥尻町青苗地区

■過去の震災復興からの教訓

(1)復興事業が、過大なもの、過剰なものになる傾向があること

- 適正な規模と内容で合意形成することの必要性
- 日常時(事前)に復興方針を公表しておかないと事後の合意は困難

(2)復興事業が、復興後の日常時の地域復興に十分に寄与しないことがあること

- 短期的視点のみならず、復興後の中長期点の必要性

(例)

- ・北海道西方沖地震(奥尻町)
- 復興事業は、地域の防災力は向上させたが、その後の過疎化の歯止めには不十分

・阪神淡路大震災(神戸市)

- 完成後の再開ビル(商業床)に未だに空き家有り(再開発総量が過剰)

・新潟県中越大地震

- 山古志村への帰村率が想定より低下(2004年 → 2009年:人口35%減)

■東日本大震災の特徴と教訓

(1)超広域巨大災害であったこと(未曾有の経験)

- ・複数県が同時に被災したこと
- ・市町村の行政機能が喪失したこと
- ・膨大ながれきが生じたこと
- ・原子力発電所が被災したこと 等

(2)21世紀の縮減社会における初の巨大災害であること

- ・被災前から人口減少、高齢化、産業衰退が進行
- ・集約型都市構造への転換期における巨大災害

(3)「産業の迅速な復興の在り方」がクローズアップされたこと

- ・阪神淡路大震災(サラリーマン家族が主な被災者)
- 「住宅地」の復興が大きな課題
- 「仮設住宅」の迅速・適切な供給方法等の教訓を得る
- 「仮設住宅」から「仮設市街地(仮設住宅+仮設店舗 等)」へ
- ・東北では、「仮設住宅」等是对応済みだが、「雇用の場」がないために、人口流出に歯止めがかからず
- 地方公共団体(市町村)の維持・発展への危惧



## ■三重県における事前復興まちづくりに向けた検討の前提条件

### 議論の前提条件

→ 同時進行する「**2つの災害**」に備えること

#### (1) 人的災害(人災)

→ 日本人が自ら招いた縮減社会に伴う中長期的な地域衰退

#### (2) 自然災害(天災)

→ 巨大地震による大災害による瞬間的・短期的な地域衰退

**[危惧]** 事前復興(地域再生)に取り組まないと、自然災害に遭遇しなくても、人的災害により徐々に地域社会が衰退へ。  
現在の狭い意味での防災対策ではなく、2つの災害に備える視野の広い総合的な防災対策にステップアップへ。

## ■東北の厳しい現状「復興の遅れ」

被災地の42市町村の人口流出の現状

→ 40市町村:約7.2万人減少

→ 2市町(仙台市・利府町):約2.8万人増加

このまま人口減少が続くと.....

→ 復興に支障が生じ、復興計画の見直しが必要になる可能性あり

- ・将来人口の予測に伴う土地利用の見直し
  - ・学校の復興の見直し
  - ・災害復興公営住宅の建設戸数の見直し
- など

(「朝日新聞 2013.2.26」より)



## ■三重県における震災復興まちづくりに向けた事前準備

(1)「復興方針・復興計画イメージ」の事前公表

→ 三重県・市町の都市マスタープラン等の見直しへ

①「被害想定」(ハザードマップ)の組み込み

- 復興初期の土地利用計画の検討
- 応急仮設住宅の建設候補地
- 災害廃棄物の一次・二次置場の候補地

②「復興方針・復興計画イメージ」の検討

- 防潮堤・既存市街地のかさ上げ・高台移転などの実現の可能性
- 基本は「集約型都市構造」等の実現

(2)復興の学習の場づくり、復興まちづくり訓練へ

(3)中長期的な日常の取り組み(2つの災害に対応する市街地・集落の立地の再検討)

→ 災害リスクの軽減に向けて、住宅・店舗・事務所・工場・学校・市役所・公共施設などの立地の再検討へ



「地震・津波災害に強いまちづくりガイドライン」(中間とりまとめ案)  
国土交通省中部地方整備局